

主日礼拝説教「神の御前で生きる」予稿

日本基督教団石神井教会 2026年10月25日

【旧約聖書日課】ヨブ記 38章1～18節

- 1 主は嵐の中からヨブに答えて仰せになった。
2 これは何者か。
知識もないのに、言葉を重ねて
神の経綸を暗くするとは。
3 男らしく、腰に帯をせよ。
わたしはお前に尋ねる、わたしに答えてみよ。
4 わたしが大地を据えたとき
お前はどこにいたのか。
知っていたというなら
理解していることを言ってみよ。
5 誰がその広がりを選んだかを知っているのか。
誰がその上に測り縄を張ったのか。
6 基の柱はどこに沈められたのか。
誰が隅の親石を置いたのか。
7 そのとき、夜明けの星はこぞって喜び歌い
神の子らは皆、喜びの声をあげた。
8 海は二つの扉を押し開いてほとばしり
母の胎から溢れ出た。
9 わたしは密雲をその着物とし
濃霧をその産着としてまとわせた。
10 しかし、わたしはそれに限界を定め
二つの扉にかんぬきを付け
11 「ここまでは来てもよいが越えてはならない。
高ぶる波をここでとどめよ」と命じた。
12 お前は一生に一度でも朝に命令し
曙に役割を指示したことがあるか
13 大地の縁をつかんで
神に逆らう者どもを地上から払い落とせと。
14 大地は粘土に型を押していくように姿を変え
すべては装われて現れる。
15 しかし、悪者どもにはその光も拒まれ
振り上げた腕は折られる。
16 お前は海の湧き出るところまで行き着き
深淵の底を行き巡ったことがあるか。
17 死の門がお前に姿を見せ
死の闇の門を見たことがあるか。
18 お前はまた、大地の広がり
隅々まで調べたことがあるか。
そのすべてを知っているなら言ってみよ。

【福音書日課】ルカによる福音書 12章13～31節

13 群衆の一人が言った。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」¹⁴ イエスはその人に言われた。「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」¹⁵ そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っていたとしても、人の命は財産によってどうすることもできない

からである。」¹⁶それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。¹⁷金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い巡らしたが、¹⁸やがて言った、『こうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、¹⁹こう自分に言ってやるのだ。『さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ』と。』²⁰しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか』と言われた。²¹自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。』

²²それから、イエスは弟子たちに言われた。「だから、言うておく。命のことで何を食べようか、体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。²³命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切だ。²⁴鳥のことを考えてみなさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、納屋も倉も持たない。だが、神は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか。²⁵あなたがたのうちのだれが、思ひ悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。²⁶こんなごく小さな事さえできないのに、なぜ、ほかの事まで思ひ悩むのか。²⁷野原の花がどのように育つかを考えてみなさい。働きもせず紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。²⁸今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである。信仰の薄い者たちよ。²⁹あなたがたも、何を食べようか、何を飲もうかと考えてはならない。また、思ひ悩むな。³⁰それはみな、世の異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要なことをご存じである。³¹ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる。』

「今夜、お前の命は…」【こども説教のために】

10月最後の日曜日になると思い出すことがあります。二十歳のときに教会の友人が突然亡くなったことです。その日曜日、教会の礼拝が終わると、午後はめずらしく何の予定もありませんでしたから、青年たち十数人で、都内の大きな公園へ遊びに行くことにしたのです。その彼も、一緒でした。子どものときからの仲間たちでしたが、久しぶりに子どものようになって公園で遊び、夕食を一緒にしてから解散しました。皆、次の日曜日でも教会で会うのが当たり前のような顔をして、別れました。翌日、教会の人から電話がありました。昨晚、青年が自宅で寝ている間に亡くなったという報せでした。前日に仲間たちと一緒に公園に行った彼でした。22歳になったばかりでした。

「今夜、お前の命は取り上げられる」と神がお決めになられたら、わたしたちは、逆らうことができません。この地上で生きるようにと命をお与えくださり、日々の糧を備えてくださるお方は、その命をお取りになるときをお決めになられる方でもあるからです。

主イエスは、だからこそ、「思ひ悩むな」とお教えになられました。今日、わたしたちを生かしてくださっている神は、わたしたちを貴いものとして大切にしてくださっているのです。この世界を貴いものとしてお造りくださり、地上でも天の上でも、生きてるときも死んだ後も、わたしたち一人ひとりを御業の中にいつも立たせてくださっているのです。

試される

先週は、火曜日に教会員 M 兄のご葬儀を執り行わせていただいた後、水曜日には、古い教会員（在天会員）のご家族が亡くなったので葬儀を執り行ってもらいたいとのご相談が続きました。明日、その方の葬儀を、近親の方やご友人方がお集まりになる斎場で執り行います。

しばらくご葬儀を執り行うことがない時期が続いていましたが、続くときは続くものです。しかしながら、一人の人の生涯の終わりのときを、傍らに伴われる周囲の方々と共に歩ませていただき、神の御もとへと送り出す営みを託していただけることは、牧師にとって幸いなことなのです。この幸いに教会の皆さんもあずかっていただきたいと願いながら、わたしはいつも、ご葬儀への参列をお勧めさせていただいてもいるのです。

とは言え、ご葬儀のようなことは、あらかじめ予定を立てておくというわけにはいきません。急遽、諸々の予定を変更したり調整したりして、ご葬儀までのスケジュールを組み立て直します。もちろん、通常の業務も並行して行いながらです。どうしても忙しくなり、余裕もなく過ごすことになるのは、致し方ないことかもしれません。

ところが、そのようなときに限って、思いがけない来客があつたりするものです。先週も、まさにそのような来客がありました。初めての方でした。「クリスチャンの友人のことで思うところがあって、キリスト教の考え方を聞きたい」とおっしゃるので、室内でお話をうかがいました。その方曰く、「知人のクリスチャンが、とても熱心に信仰しているのに、家族や自身があつてもない不幸に遭っている。どうしてなのか」というのです。

ちょうど、今日の旧約聖書日課の「ヨブ記」を黙想している最中でしたから、その方の問いに、わたしは少し驚きました。「ヨブ記」は、正しい人ヨブが不条理にも家族や財産を失い、自らも重い皮膚病に悩まされるという苦難を蒙った、という出来事から語り始められる文書です。もしかするとこの方は御使いなのではないか、忙しい一週を過ごしている牧師のところに、御言葉の黙想を深めるようにと神がお遣わしくくださったのではないか、と思いました。そこで、「ヨブ記」を心のうちに黙想しながら、正しい人の蒙る苦難の意味をキリスト教がどう考えるのか、お話しさせていただいたのです。ところが、さらに話を聞いていると、様子がおかしいのです。わたしがどのように説明しても、「それでは、キリスト教には救いがないですね」とおっしゃる。しまいには、「自分は、本当に救われる方法を知っています」と、ご自身が信じる宗教を説明し始められたのです。どうも、その方は、主から遣わされているのかもしれませんが、ただの御使いではなく、「サタン」と呼ばれる御使いだったようです。わたしを試すために、遣わされて来られたのです。

神の国を求めなさい

その方曰く、「正しい仕方では信心すれば、病気は必ず治り、経済的にも成功する」のだそうです。ご本人も、ご家族も、それで幸せになられたそうです。「牧師さんも、正しい信心をするようになれば、幸せになり救われますよ」とも言われました。「幸せになってよかったですね。どうぞ、ご自分の信心に励んでください」とだけ申し上げて、お帰りいただきました。わたしには、その方をキリスト教の教えで説得するだけの力はない、と思ったのです。

わたしは、信仰によって病気が癒されることを否定しませんし、そのような奇跡があることを信じています。また、経済的な豊かさが、大地に実りをもたらしてくださる神の恵みとして与えられるものだと、信じています。そうだとしても、病気が癒されなければ信仰は無意味だ、とは思いません。貧しさの中に置かれている者の信仰が薄い、とは言いません。

なぜならば、人は、信仰者であろうとなかろうと、罪人であるからです。この世界は、罪ある者たちの世だからです。わたしたちは、どういうわけか病気を引き寄せたり、もたらしたりするのです。どういうわけか富を独り占めする者があり、平等に豊かさを享受し続けるようにはならないのです。そういう現実の中に、わたしたちは生まれてきました。そのような世界で、命を与えられてきました。さまざまな歪みがあり、混乱があり、不正があり、偏りがあるただ中で、生きるようにされているのです。

だから、思い悩みは尽きません。苦しみも尽きません。それでも、神は、そのようなただ中に置かれたわたしたちを、生かしてくださっているのです。自力でどうにかするようと、見放されているのではないのです。この現実の世界の中で、すべての人に神の恵みが届けられるようと、その担い手を選んでくださり、お呼びくださり、ご自身の御前に立つ者としてくださっているのです。この現実のただ中で、なおここを「**神の国**」と信じて生きる者たちの教会を、世界中に起こしてくださっているのです。

病気もない、貧しさもない、健康と豊かさだけに満ちた「**神の国**」を、わたしたちは夢見るかもしれません。そのような「**神の国**」はどこにあるのかと、探し求めるかもしれません。けれども、主イエスは言われました、「実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ」(ルカ 17:21) と。この罪人であり続けるわたしたちの間に「**神の国**」がある、と信じて生きるのです。

「**思い悩むな。…ただ神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる**」。ここに、「**神の国**」があります。求めるべき「神の国」が、あります。この「**神の国**」で、わたしたちは生きるのです。神の御前で、生きるのです。互いを神の御前に生かされている友として、兄弟姉妹として尊びながら、わたしたちは共に「**神の国**」で生きるのです。